

■ 学校の共通目標

授業づくり	重点	問題解決型学習の授業展開をし、主体的に自分の考えをもち、その考えを表現することができるようにする。	中間評価	自分の考えをもたせる学習を展開することで、主体的に活動するようになってきたが、すすんで自分の考えを伝えることに課題がある。	最終評価	自分の考えをもっているが、その表現方法に戸惑う児童が年度始めは多くみられた。しかし、話型や見本を示して指導することで、相手に分かりやすく伝えるための力が少しずつ定着してきた。
		「話す」「聞く」を基本とした学習規律を維持し、互いに認め合う学級づくりを進め、学習効果を高める。		話の中心を意識して聞く態度が育まれてきた。		授業の基盤となる学習・生活規律を徹底させるとともに、相手に分かりやすく伝える力の育成に今後も力を注いでいく。
環境づくり						

■ 学年の取組み内容

学年	教科	学習状況の分析 (10月)	課題 (10月)	改善のための取組み (10月)	最終評価 (2月)
1	国語	<ul style="list-style-type: none"> ・前向きに学習している。 ・図書室に通い、本をよく読んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・聞く態度に課題がある児童、話の内容を理解することに苦手意識をもっている児童が多い。 ・漢字の習得に個人差がみられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・聞き方・話し方が身に付くように話型を示し、計画的に繰り返し指導する。話す人のほうを見て話を聞く指導を行う。 ・漢字やカタカナの練習を毎日繰り返し行う。 ・多くの本に触れ語彙を増やすために、日常的に読み聞かせを行ったり、学校図書館の活用や気軽に本を読めるように、学級文庫を充実させたりする。 ・ユニバーサルデザインを意識して指導する。正しい鉛筆の持ち方を意識させる。正しい姿勢を意識させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国語「これは、なんでしょう」の学習を通して、相手に伝わるように話す力や興味をもって聞く力が着実についてきた。 ・国語(学校図書館を活用する時間)や休み時間など読書を行う環境を整えたことで、どの児童も集中して取り組むことができ、読書活動の日常化につなげることができた。 ・発表時に友達からの質問を取り入れることで、聞くことや分かりやすく伝えることを意識することができるようになってきた。 ・「なぜかという」「理由は」等の論理的に伝える表現を活用することも視野に入れ、今後も伝え方の指導を継続していく。
	算数	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単な問題にはすぐに答えられるが、考え方を発表することに慣れていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・考え方や学習のまとめノートを書くことに個人差がみられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実物投影機を使ってノートのどこから書くか細かく指導する。分かりやすい板書になるように大きく丁寧に文字を書く。 ・実物を示したり、体感できるようなものを用意したりして、学習の意欲を喚起させるような授業を工夫する。 ・自分の考えをもたせるため、「自分の意見を言いましょうコーナー」を設ける。 ・文章題で分かっていることとともめることをつかませる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実物投影機を使って教書やノートを映し出すことで、どこを書いたらいいか等、学習意欲が明確になり、児童の理解の助けができた。 ・実物を示したり、体感できるようなものを用意したりして、学習の意欲を喚起させるような授業を工夫し、児童が「自分もやってみよう」と主体的に学習意欲が湧いてきた。 ・「自分の意見を言いましょうコーナー」を通して、まず自分の考えをもつという意欲を向上させることができ、相手に伝える意欲も育ってきている。 ・文章題の「分かっていること」「求めること」を毎授業で確認する機会を取り入れることにより、問題の構造を捉えさせることができるようになった。また、自力解決の際自ら「分かっていることばかり」「求めることばかり」をおさえる習慣が定着してきた。

学年	教科	学習状況の分析 (4月)	課題 (4月)	改善のための取組み (4月)	中間評価・追加する取組み (10月)	最終評価 (2月)
2	国語	<ul style="list-style-type: none"> 学 新出漢字練習や学習、読書に対して意欲的に取り組もうとしている児童が多い。 学 文字の定着、ひらがなの字形、「てにをは」や小さい「つ」を文章の中で正しく使うことの定着には個人差が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えをわかりやすく文章に表したり、正しく文章に表したりすることに課題がある。 ・相手に伝わるように話し、大切なことを落とさずに聞くことに課題のある児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な教科で自分の考えをもたせ、文章化する機会を多く作る。 ・一年間を通してスピーチを行い、相手に伝わるように話す力、興味をもって聞く力を身に付ける。 ・授業の中で、小グループでの話し合い活動を設定し、わかりやすく伝える力を育てていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・お話を作ったり、感想を書いたり自分の考えを文章に表す機会は多く作れたことにより、少しずつ文章を書く力は付いてきている。 ・スピーチ大会を行ったことにより、相手に伝わるように話す力や興味をもって聞く力が着実に付いたが、大切なことを落とさずに聞くことの練習を積み重ねていく必要がある。 ・小グループでの話し合い活動で伝える力は付いてきているので継続して取り組んでいく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常的な学習活動を行っていく中で自分の考えや感想を正しく文章で表せるようになってきている。 ・原稿を用意しなくても1分ほどのスピーチができるようになってきたが、大事なことを落とさずに聞く力を引き続き育てていく必要がある。 ・小グループでの話し合い活動が展開できたが、全体の場で表せる児童が偏りがあるので、継続して指導していく。
	算数	<ul style="list-style-type: none"> 学 繰り上がりのたし算、繰り下がりひき算の定着にはC層の児童に課題が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な計算はできるが、考え方を説明することに苦手意識をもっている児童が多い。 ・基本的な計算能力が定着していない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題解決型の学習を取り入れ、自分の考えを小グループの中で説明する機会を多く作る。 ・繰り返しの学習を通して、計算問題が定着するようにする。また、計算の説明をすることができるように取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小グループの中で説明する機会を取り入れているが、うまく伝えることに課題がある児童が多いため、話型のひな形を示し、取り組ませるようにする。 ・計算力は定着しているが、繰り上がりや繰り下がり計算が定着していない児童が1割程度いる。10の合成分解の課題を通して定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・答えを出すことはできるが、答えを出す意欲が説明できない児童が多い。引き続き、話型を示して指導していく。 ・九九の暗唱がほぼ全員できたが、繰り上り繰り下りの筆算が不慣れになっている児童がいる。 ・計算ミスが多く、確かめ算などをして着実に計算する力を身に付けさせていく。
3	国語	<ul style="list-style-type: none"> 学 漢字テストの問題量と方法が変わったことにより、それに適応できている児童とできていない児童がいる。 調 「国語への関心・意欲・態度」「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」については区の平均を上回っている。特に「書く能力」「読む能力」について目標値を大きく上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「話すこと・聞くこと」に関して、大事なことを落とさないように聞き取ることに課題が見られる。 ・既習の漢字を文章や手紙などに活用しきれていない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話の中心を意識して話す・聞く活動のポイントを指導し、それらを活用した活動を設定して、話す・聞く力の向上を図る。 ・「国語辞典の使い方」の学習を生かし、国語辞典を活用する機会を増やし、既習の漢字を積極的に使う機会を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全校朝会の後に校長の話の要点をまとめたり、昨日の学習内容の要点を授業の最初に発表させたりする活動により、話の中心を意識できる児童が少しずつ増えてきた。 ・国語科に限らず、分からない言葉や漢字については辞書を活用する機会を意図的に設け、積極的に辞書を活用した結果、既習の漢字を使おうとする児童が少しずつ増えてきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新宿区学力定着調査では全ての問題・領域において目標値を上回った。特に「話し合いの内容を聞き取る」「漢字を書く」「ことばの学習」では目標値10ポイント以上上回った。 ・国語科に限らず、学習において辞書を活用し、言葉や漢字に対する意識が高まってきた。

	算数	<p>学意欲的に活動に取り組もうとする児童が多い。時間と時刻に関する問題に課題が見られる。</p> <p>調「数学的な考え方」「数量や図形についての技能」「数量や図形についての知識・理解」については区の平均を上回っている。</p>	<p>・「時間」と「時刻」の区別があいまいな児童がいる。時間と時刻に関する文章問題を苦手とする児童がいる。</p> <p>・調解答形式でみると、「記述」が区平均を若干下回り、口頭による説明に比べ、記述による説明する力に課題が見られる。</p>	<p>・様々な種類の問題に取り組む機会を設け、問題に慣れ親しませる。</p> <p>・口頭による「説明」について指導にも力を入れてきたので、今後は文章記述による説明という学習展開も意識して行く。</p>	<p>・学校生活の中で、時間や時刻に関する言葉掛けを意識的に言い、時間と時刻に関する感覚が少しずつ養われてきた。</p> <p>・問題解決の過程で自分の考えをノートに書く活動の時間を意図的に設けている。</p>	<p>・新学区学力定着調査では全ての領域において目標値を上回った。特に「かけ算」については目標値を10ポイント以上上回った。</p> <p>・時間や時刻に関する言葉掛けを日常的に取り組んだことで、時間を意識して行動するようになってきた。今後も継続して声掛けしていく。</p>
4	国語	<p>学自分の考えを表現する意欲はあるが、相手が理解できるように話したり、自分の考えを相手の考えと比べたりする力は十分とは言えない。</p> <p>調領域「書くこと」の正答率は平成27年度の校内平均正答率と比べて、5ポイント下回る結果となった。特に、二段落構成で書く設問は、目標値を大きく下回っている。</p> <p>調領域「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の正答率は目標値を8ポイント上回った。特に、漢字を読む、漢字を書く設問は大きく上昇している。</p>	<p>・「話すこと・聞くこと」の活動において、話の中心を理解して聞くことができない。また、自分の考えと比べて聞くことが課題である。</p> <p>・「話すこと・聞くこと」の活動において、要点を押さえて自分の考えを話すことが苦手である。</p> <p>・段落構成を考えて文章を書くことに課題をもっている児童が多い。</p>	<p>・友達が話していることの要点をメモするなど、話の中心を聞き取る活動をする。</p> <p>・スピーチ活動を充実させ、話の中心を意識して話す活動を多く取り入れる。</p> <p>・日記や作文の活動を通して、「始め、中、終わり」を意識しながら、文章を構成する活動をする。</p>	<p>・「始め、中、終わり」を意識しながらスピーチをする活動を通して、型に沿った構成で話すことができる児童が増えた。しかし、スピーチ活動では、原稿を書かないと構成が成り立たないことがあるので、今後、スピーチ原稿を書く活動を取り入れる。</p> <p>・話を聞き取る活動では、話の中心を意識して聞き取る態度が育まれてきたが、十分ではない。</p>	<p>・新学区学力定着調査では、どの観点も目標値を上回ることができた。特に「話す・聞く能力」「読解能力」「言語についての知識・理解・技能」は大幅に上回ることができた。日々の活動でも、「始め、中、終わり」を意識して話術が定着している。</p> <p>・「書く能力」は目標値よりも高い伸び率もある。文章構成を考えて書くことが課題である。</p>
	算数	<p>学意欲的に自分の考えを説明したり、課題に取り組んだりする姿が見られる。</p> <p>学表やグラフの作図では、正確に仕上げることに苦手意識をもつ児童が多い。</p> <p>調基礎・活用、領域・観点を見ると、すべて目標値は上回ることができた。しかし、基礎・活用、領域・観点全てで、区平均を下回っている。中でも、図形領域は、区平均よりも3ポイント下回っている。</p>	<p>・三角定規、コンパス、分度器などの道具を活用して、作図等を正確にかくことが課題である。</p> <p>・題意を確実に把握せずに、問題に取り組み、間違える児童が多い。</p>	<p>・算数に限らず、定規を使って直線を引くなど道具を活用する活動を取り入れる。</p> <p>・中心となる課題に線を引くなどの活動を取り入れる。</p> <p>・題意を把握できるようにするため、算数だけではなく他教科と関連させて読解力を高める活動を多く取り入れる。</p>	<p>・算数的活動において、定規を使う活動を徹底させているが、作図では個人差がある。</p> <p>・友達の考えを発表する活動を通して、考えを読み取ることができるようになってきた。</p>	<p>・普段の学習では、繰り返しの練習により慣れた力が向上し、自分の考えを説明する力も伸びてきた。</p> <p>・新学区学力定着調査では、量と測定は目標値を上回っている。</p> <p>・課題として問題を解く力が不足している点も挙げられる。集中して学習に取り組もうという意識をもたせて指導する必要がある。また、折れ線グラフ・作図・角度の読み取りが目標値を下回っているため、引き続き道具を使う等構造的な活動力を入れていく。</p>
5	国語	<p>学新出漢字を丁寧に書こうという意識が高いが、既習の漢字を活用し、文章を書くことが苦手な児童がいる。</p> <p>学読書量には個人差がある。</p> <p>学語彙力に課題がある。</p> <p>調登場人物の気持ちを読み取ることに課題がある。</p> <p>調自分の気持ちや考えを表現することに課題がある。</p>	<p>・文章の読み取りに課題がある。登場人物の感情を読み取ったり、関係性を理解したりすることに苦手意識を感じている児童が多い。</p> <p>・自分の気持ちを表現したり、相手に伝えたりすることに課題がある。</p>	<p>・ペア学習を取り入れ、自分の表現に自信をもたせてから、全体へ広げられるようにする。</p> <p>・自分の気持ちや考えを書く機会を多くつくる。</p> <p>・年間を通して、スピーチを行い、相手に分かりやすく伝える力を育てる。</p>	<p>・ペア学習を取り入れたことで、自信をもって発言できるようになってきたが、すすんで発言しようとするまでには至っていない。</p> <p>・スピーチ活動を通して、自分の考えを伝えようと努力する姿勢がみられるようになってきた。</p>	<p>・新学区学力定着調査では、「話す・聞く能力」「読解能力」が目標値を上回っている。</p> <p>・文章を読み取る能力が少しずつ高まってきた。</p> <p>・スピーチ活動を通して、自分の考えを伝える力が身についてきている。</p> <p>・意欲的に学習しようとする姿勢が低く、発言が少ないうことが課題である。今後も継続して指導していく。</p>
	算数	<p>学課題に対して、意欲的に取り組む児童が多い。</p> <p>学積極的に発言する児童が少ない。</p> <p>学集中して課題に取り組むことができるが、計算間違いが多い。</p> <p>調数量や図形についての技能や、知識理解が十分でない。</p> <p>調計算のきまりや面積の理解は、十分できている。</p>	<p>・計算間違いが多く、習熟度に個人差が多い。</p> <p>・数量や図形についての図形の作図や、文章問題から公式に結び付けることが課題である。</p>	<p>・授業始めに、簡単な計算を継続的に取り入れていく。</p> <p>・具体的な操作活動や、図を用いた説明を多く取り入れる。</p> <p>・問題解決を中心として授業展開をし、自分の考えを相手に伝える場面を増やす。</p> <p>・計算ドリルを繰り返し取り組んだり、授業中での問題解決の時間を多く設定したりする。</p>	<p>・問題解決学習や ICT を活用した授業展開をすることで、自分の考えを相手に伝えることに自信をもてるようになってきた。</p> <p>・既習の学習内容を繰り返し復習することで、授業で活用できるようになった。</p> <p>・理解度に個人差があり、既習事項が定着していない児童もいるので、その都度取り上げて理解につなげていく。</p>	<p>・新学区学力定着調査の結果から全ての領域で目標値を上回っている。</p> <p>・理解度に個人差があり、全体的に既習事項の定着しなかつたが、授業始めに、簡単な計算や既習事項を確認することで、自信をもって、取り組む姿勢がみられるようになった。</p> <p>・文章題から立式が導き出せることができず、諦めてしまう傾向がある。繰り返し、立式の過程を説明することができるよう指導していく。</p>
6	国語	<p>学読書量には個人差がある。</p> <p>学文字や文章を丁寧に書こうという意識が不足している児童が多い。</p> <p>学文章を単純に読み取ることができるが、読み取ったことから推論することができていない。</p> <p>調全領域で区平均を上回っている。特に読む力は区平均を5ポイント以上、上回っている。</p>	<p>・登場人物の心情の変化など、進んで発言する児童は多いが、自信をもつことができないために発言を躊躇する児童が多い。</p> <p>・文章を読み取ることにはできているが、読み取ったことに対して自分の感想や意見をもち、読み手に伝わるように書くことに課題がある。</p> <p>・とめ、はね、はらいを気にとめない児童が多い。また、結果として正しく漢字を覚えることに課題がある。</p>	<p>・ペア、グループ学習を取り入れ、自分の表現に自信をもたせ、全体に伝えられるようにする。</p> <p>・他教科においても、社会科でも読み取ったことから考えさせる機会を設定し、推論する経験を増やす。</p> <p>・ICTを活用し、視覚的に分かりやすい指導をするとともに、児童のノートを丁寧に見て、間違いの傾向をつかみ指導に生かす。</p>	<p>・自信をもって発言できるようになったとは言えないが、自分の考えを表現することに対する抵抗は少なくなった。ペア、グループ学習を継続して、自分の表現に自信をもつことができるようにする。</p> <p>・社会科の新聞作りでは、調べたことをまとめることから、調べたことをもとに考えたことをまとめる学習に重点を移している。</p> <p>・漢字練習など、よく見る（観察する）ことで、できる（分かる）ようになることに児童が気が付いているので、継続して指導する。</p>	<p>・新学区学力定着調査の結果から全ての領域で目標値を上回っている。教科文を読み取り、自分の考えと対比して文章をまとめる事ができるようになってきた。</p> <p>・調べた事から考える学習を継続してきた成果が少しずつ出てきた。</p> <p>・練習を重ねた事で難しく漢字を書くことができるようになってきた。</p>
	算数	<p>学積極的に発言する児童が少ない。</p> <p>学学習内容の定着が不十分で、既習事項を基に問題解決するとき自信をもって取り組むことができない児童が多い。</p> <p>学考え方を表現することが苦手である。</p> <p>調全領域で区平均を下回っている。</p>	<p>・問題の答えを導くことができてもどのような考えで問題解決したか説明できない児童が多い。順序立てて説明できていないことに気が付かない場合がある。</p> <p>・立式はできても計算間違いが多い。</p>	<p>・言葉で説明することが苦手な児童が多くいるため、意図的に言葉・図等を用いた説明をする場面を多く設定し、考えを表現する力を身に付けさせる。</p> <p>・解の見当をつける習慣化を図る。</p>	<p>・ICTを活用し、自分の考えを表現することには慣れてきた。準備する時間がないと考えを表現できない児童はいるので、実態に合わせた場の設定をしながら継続指導する。</p> <p>・見当違いの解が出てくる頻度は下がっている。</p>	<p>・新学区学力定着調査の結果から「量と計算」の領域で目標値を到達しなかった。</p> <p>・自分の考えを発表する活動の積み重ねで、数解的な考え方が高まった児童も多数いるが、基礎基本が定着しない児童もいるため、進まない児童もある。繰り返し、指導していく。</p>

音楽	歌ったり演奏したり聴いたりする活動に意欲的に取り組む児童が多い。 このように演奏したい、表現したいという思いはあってもそれを表現する技能が十分ではない。	<ul style="list-style-type: none"> ・読譜の力に課題がある。特にリズムや音価の認識に課題がある。 ・歌唱力、演奏技能に個人差が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の始まりに簡単なリズム打ちや、階名を読むなどの導入を行い、読譜に慣れるようにする。 ・よい表現や、どのようにしたら上手く演奏できるかなど学級で共有し技能を高めていく。 ・机間指導をきめ細かく行い、学級の状態を把握しながらスモールステップで授業を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・リズムや音程について意識させるようにしたことで、自分で楽譜を読める児童が増えてきたが、十分ではない。 ・よいモデルとなる児童の演奏を取り上げ共有したことで、よい演奏を意識する児童が増えてきたが、表現力の向上までには至っていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・リズム打ちや階名を読むことはできたが、苦手意識をもつ児童も多い。繰り返し行うことで、少しずつ自信をつけさせていきたい。 ・歌や楽器の表現を行うことはできたが、どのように歌ったらよりよくなるまで考えながら表現することについては、児童が多い。技能高めつつ、表現力も高められるように、引き続き指導をしていく。
図工	創造する楽しさを感じ、表現する基礎的な能力がある児童が多い。 身近な芸術作品について自分なりの見方や感じ方をもち、それを自分の言葉で表現する力が十分ではない。	<ul style="list-style-type: none"> ・友達や自分の作品について、よさを感じ取っても言葉で表す力に課題が見られる。 ・様々な作品に触れる機会が少ない児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞の時間を十分にとり、感想を話し合い、感じたことをカードに書く。また、評価の際に良いところをほめるなど、フィードバックすることにより、鑑賞の視点を育てていく。 ・表現する意欲を高めるために、材料・環境・友達の表現と出会う場面の設定を工夫し、感性や想像力を活性化させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・立体の鑑賞の機会を保障するとともに平面作品や身近な芸術作品なども対象とした様々な鑑賞の機会を設け、鑑賞そのものへの興味を高める。 ・友達の作品のよさを認める児童が増えたので表現する意欲につなげるように発言等を効果的に取り上げていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の作品を机間で見合い、感想を伝え合う活動を意識的に設定したところより、少しずつ自分の思いを表現できる児童が増えてきた。しかし、個人差が生じているので、引き続き声掛けして支援していく。 ・様々な材料と触れ合う場をつくり、主体的に表現する意欲を高めることができた。
特支					

調…新宿区学力定着度調査の結果から見える学習状況

学…授業での様子や提出物、作品、ワークテスト等から見える学習の状況

※分量は2 ページ以上となってもよい。